

霊宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第153号

令和8年2月10日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話0736-56-2029

URL <https://www.reihokan.or.jp>

利用案内

■開館時間 9時00分～17時00分

■休館日 年末年始

(展示替えに伴う臨時休館あり)

■拝観料(冬期平常展期間中)

大人 800円

高・大学生 600円

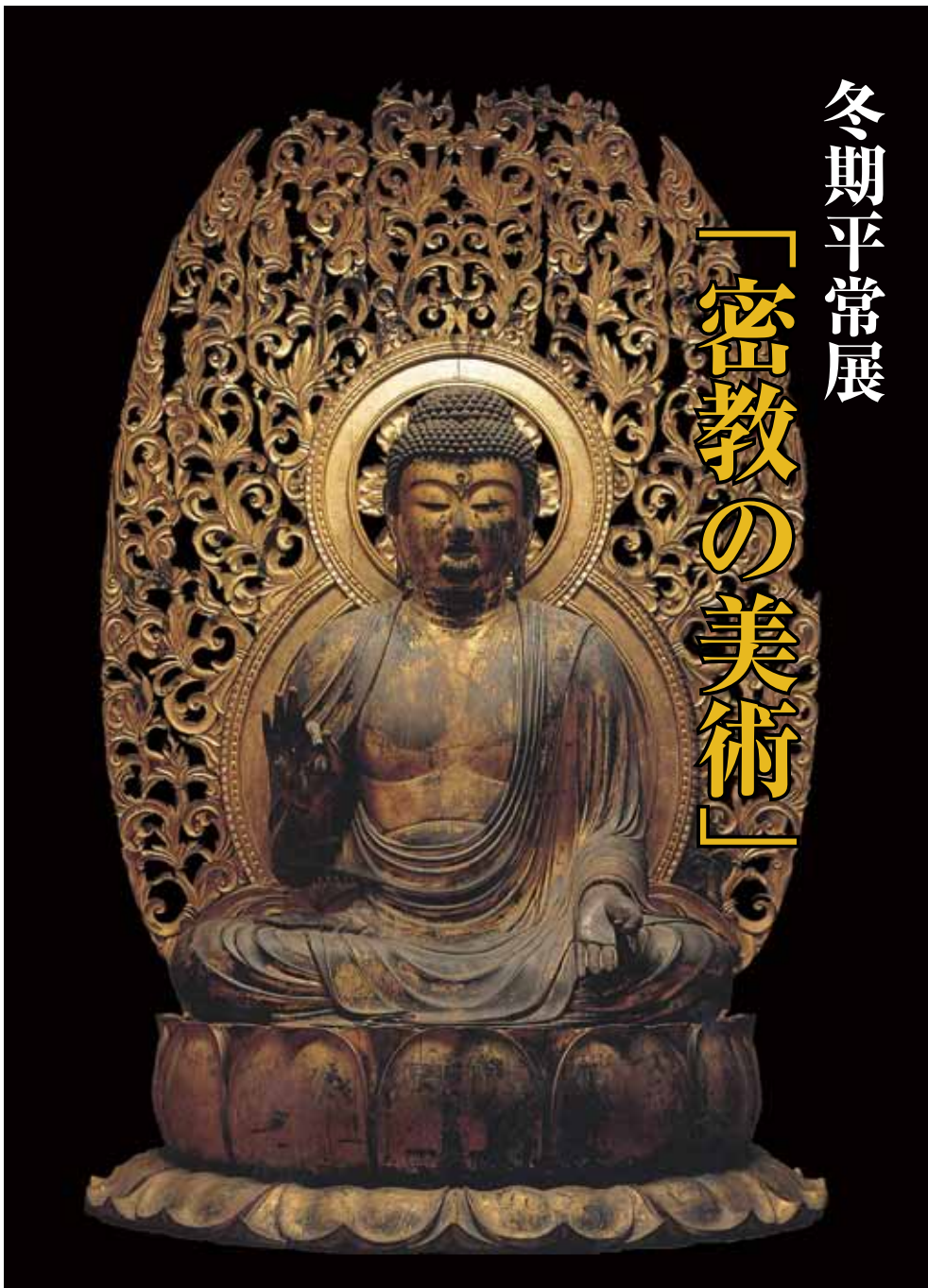
小・中学生 400円

高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。(住所記載の証明書、または学生証提示要)

■専用駐車場あり

冬期平常展

「密教の美術」



「重要文化財 木造阿彌陀如来坐像」平安時代 地蔵院蔵
高野山霊宝館で最も長大な収蔵品で、像高三〇〇㎝をはかる坐像である。当初は、蓮花台阿彌陀堂に旧在した。仏像の身長が一丈六尺(約四八〇㎝)あるとされることから、丈六(像)と呼ばれる。

令和7年度 冬期平常展

「密教の美術

～しあわせのカウント～

令和8年1月17日(土)～
4月12日(日)

第153号 目次

- 冬期平常展のご案内……………2～3
- 収蔵品の紹介122……………4
- 高野山の古建築 第四十四回……………5
- 特集高野山……………6～7
- 高野山霊宝館からのお知らせ……………8



高野山霊宝館
公式Instagram
QRコード

毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントあり!

令和7年度 冬期平常展

「密教の美術くしあわせのカウントく」



重文 八宗論大日如来像 善集院【後期】



重文 尊勝曼荼羅図 宝寿院【後期】



重文 八字文殊曼荼羅図 正智院【前期】

令和8年1月17日(土)く4月12日(日)

前期 1月17日(土)く2月23日(月・祝)

後期 2月25日(水)く4月12日(日)

会期中無休

「ラッキーセブン」や「未広がり」という言葉からも7と8という数字に幸運や幸福といったポジティブな印象を持っている方は多いのではないだろうか。この2つの数字は仏教においても良い数字として扱われることが多く、8尊の菩薩や7つの星などは、ありがたいものや、しあわせを表現しているかのよう描かれます。本展覧会では、令和7年から8年に年号がカウントされることにちなみ、数字の7と8にフォーカスをあて、文化財を通じて、この2つの数字が、仏教においてどのような立ち位置であるかを探っていきます。

主な展示品

絵画

- | | | |
|-------|----------|---------|
| 重要文化財 | 八字文殊曼荼羅図 | 正智院【前期】 |
| 重要文化財 | 尊勝曼荼羅図 | 宝寿院【後期】 |
| 重要文化財 | 八宗論大日如来像 | 善集院【後期】 |
| 未指定 | 阿弥陀八大菩薩像 | 金剛峯寺 |
| 未指定 | 壇上寺家絵図 | 金剛峯寺 |



宝剣 有志八幡講



重文附属 七鈷鈴 (灌頂道具類)
龍光院



念珠 (伝契仲所持) 金剛峯寺



馬頭観音立像 靈宝館



八葉梵字浮彫小九尊像 金剛峯寺



瑞花双鳥文八稜鏡 明王院

彫刻

未指定 八葉梵字浮彫小九尊像

金剛峯寺

未指定 馬頭観音立像

靈宝館

未指定 弁財天坐像

金剛峯寺

工芸

重要文化財附属 七鈷鈴 (灌頂道具類)

龍光院

未指定 宝剣

有志八幡講

未指定 瑞花双鳥文八稜鏡

明王院

未指定 念珠 (伝契仲所持)

金剛峯寺

書跡

国宝 紺紙金銀字一切経

金剛峯寺【後期】

重要文化財 紺紙金字一切経

金剛峯寺【前期】

重要文化財 高麗版一切経

金剛峯寺

重要文化財 十卷抄

【前後期入替】
円通寺

民俗資料

国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔

円通寺

※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。

◎期間中、一部展示替えを行います。

◎次回展覧会

令和8年度 春期企画展
「御社遷宮にちなみたどる
高野山の神々」

令和8年4月18日(土) ～ 7月5日(日)

収蔵品の紹介 122



八字文殊曼荼羅図 正智院

重要文化財

八字文殊曼荼羅図 一幅

絹本着色 鎌倉時代 正智院蔵
縦116.4cm 横86.2cm

密教において曼荼羅といえは、「両界曼荼羅」のことを指すのが一般的です。これとは別に、息災・増益・敬愛・調伏といった、現世利益を求める修法のために用いられる曼荼羅があり、これらを「別尊曼荼羅」と呼びます。この修法自体は「別尊法」と称され、実践の目的に応じて、さまざまな尊格が用いられました。今回ご紹介する「八字文殊曼荼羅図」は、その数ある別尊曼荼羅の一つです。智恵の仏として知られる文殊菩薩を本尊とする修法には、真言の字数や、髻の数の違いによって、一字文殊法・五字文殊法・八字文殊法などの種類があります。日本で広く信仰を集め、仏像・仏画として多く表現されたのは五字文殊菩薩でしたが、別尊法として人気を集めたのは「八字文殊法」でした。とくに息災、なかでも天変地異を払う効果があるとされ、天台密教では四大秘法の一つとして重視されました。対して、真言密教ではそれほど盛んではなかったと考えられています。

本図は内院と外院の二重構成で、両者を区切る枠には五色の界線が引かれています。内院中央には、獅子に乗り、八髻に結った八字文殊菩薩が大円輪内に描かれ、その周囲には八字文殊菩薩の真言が梵字でめぐります。さらに外側には、その梵字に対応する八大童子が配置され、四隅には降三世・大威徳・無能勝・馬頭の四大明王が配されています。外院には、四摂菩薩・四供養菩薩、そして八方天とその妃を合わせた十六大護が描かれ、曼荼羅全体の守護を担います。

なお『大聖妙吉祥菩薩秘密八字陀羅尼修行曼荼羅次第儀軌』によれば、大円輪中央に文殊菩薩の種字「満」字を置き、周囲に八字真言の種子「唵・阿・味・羅・吽・佉・左・洛」を書きます。中央は満字の代わりに八字文殊菩薩を描いてもよいとされており、実際に本図でも図像表現が採られています。

画中の諸尊は精緻に描き分けられ、明快な色彩は描き手の技量をよく示しています。別尊曼荼羅が担った祈りの力と、絵画としての完成度、その両面を読み取れる作品といえるでしょう。

(菅家 みづき)

連載

高野山の古建築

伽藍大会堂

第四十四回

鳴海 祥博



正面側の詳細 向拝の虹梁や、獺の木鼻、龍の中備え彫刻、臺段の彫刻、桁下の波彫刻の支輪板など細部に注目すると、江戸末建築の特色が満載である。



大会堂の全景 正面五間、側面五間で、正面中央に向拝が付いている。大建築だが、素木だからなのか、伽藍の中では余り目立たない。



内部の詳細 内外陣境の柱と梁、須弥壇は漆塗りとなっているが、その他は節一つ無い上質の木材の清らかさが際立っている。一切の間仕切りの無い室内は「法会」の空間だったことを伝えているようである。



軒廻りの詳細 地垂木と飛檐垂木の2段で構成される軒廻りは、降雨から建物を護るために、時代と共に外に張り出すようになる。大会堂の軒は当時考えられた最大の軒の出となっている。

が、なぜ「大会堂」という名前
で呼ばれるのでしょうか。それは
このお堂の創建や来歴にかか
わっているようです。

お堂の由来について、江戸時
代にまとめられた『紀伊統風土
記』などを見ると、平安時代、
保元元年（一一五六）に崩御さ
れた鳥羽法皇の菩提所として、
安元元年（一一七五）に鳥羽法
皇の皇女五辻斎院領子内親王
の発願で、高野山内の「東別所」
に創建されたとされています。

その時は「蓮華定院」と称され
ていたと記録にあります。東別
所は、念仏聖の集まった場所
で、現在の「刈萱堂」のある
辺り
とされています。

創建の二年後、お堂は伽藍の
所在地に移されました。それ
は当時出家して高野山に住ん
でいた西行が領子内親王に進
言して実現したようです。西行
は鳥羽法皇に仕えた北面の武
士佐藤義清です。当時三十二
歳の領子内親王は、二十三歳
で出家し五十九歳となってい
た西行とは面識があったはず
です。

では西行が鳥羽法皇の菩提所
を伽藍に移築しようと考えた
のは何故なのでしょう。それは
当時の高野山内で、「本寺」と
称した金剛峯寺の僧侶と、鳥
羽法皇の帰依を受けた覚鑿上
人の創立した「大伝法院」の
僧侶が教義をめぐる主導権争
いを繰り広げていたことに関
係があるのではないかと思います。

西行は、「本寺」金剛峯寺の
聖域である伽藍に、「大伝法院
」と深い関わりのある鳥羽法
皇の菩提所を移したこのお堂
で、「本寺」方と「大伝法院」
方の僧侶が合同で「伝法会」
という法会を開催することを
意図したよう
です。

「伝法会」は弘法大師の跡を
継いだ真然大徳の始めた重要
な法会で、その後衰退していた
ものを覚鑿上人が再興し、そ
れが「本寺」方と「大伝法院」
方の紛争の元となっていました。
西行はその解決策として鳥羽
法皇の菩提所を伽藍に移し、「
伝法会」を行うお堂としたの
です。

そのような経緯からお堂は「
伽藍」と称されることになった
のだと思います。「伽藍」が
「大会堂」となったのは記録
を見る限り明治二十九年頃
からのようです。

お堂の内部を見ると堂内中央
の、正面三間、奥行き二間で
内陣、その三方に外陣が取り
囲み、内陣正面の奥行き一間
の三方を壁で仕切って須弥壇
を構え、本尊を祀っています。
内陣と外陣は仕切りの無い
広い空間となっていて、なる
ほど多くの僧侶が一堂に会
して法会を行うにふさわしい
空間だと思えます。

内外陣境の柱と上部の梁、そ
して須弥壇だけは漆で塗装さ
れています。その他は節一つ
無い上質の木材の清らかさが
際立っています。洗練された
堂内の空間は、連綿と続く
歴史の物語を伝えているよう
に思えます。

特集高野山

国登録有形民俗文化財

高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料の調査（その四）

施主・被供養者の住所

◎小型木製五輪塔の地輪に記された

墨書

円通寺で発見された小型木製五輪塔（以下、「五輪塔」といいます）
 一二、一五六基の内、五、一八一基の地輪には、側面に四門の梵字が墨書

されているほか、五輪塔の呼称である「八万四千（宝塔）」、施主名、被

供養者名（法名）、施主もしくは被供養者の住所（国名、郡名、村名）、供養内容（故人の追善供養・逆修供養）、願意（息災延命・二世安楽）

といったさまざまな情報が墨書されていることを確認できました。

地輪の墨書箇所は、ほぼ底部に見られ、そのような例は、全体のうち一〇、三五〇基にも及びました。一方、その他二二基のみが側面に法名や「法界」などと墨書されていました。

本稿では、墨書の内容の一部をご紹介します。

なお、一基のみでしたが、施主二名（A・B）と被供養者一名の、それぞれ

の内容は、施主Aと被供養者の国名は但馬国、施主Bは山城国と墨書されていたが、全体数のうち、影響のない誤差の範囲と判断し、この五輪塔は但馬国の五輪塔一基として集計しました。（図1、図2）

◎墨書にみる国名

記された住所地名には、「江戸」、「武州」（武蔵国。現東京都）が二八九基、「佐州」、「北佐」（佐渡国。現新潟県）が一二四基、「越中」、「越中国」（現富山県）が五三三基、「能州」（能登国。現石川県）が二一九基、「若州」（若狭国。現福井県）が一三三基、「丹后」（丹後国。現京都府）が三三三基、「但州」（但馬国。現兵庫県）が二、六二七基、「淡路国」、「淡州」（淡路国。現兵庫県）が四八六基、「丹波」（丹波国。現京都府）三五基、

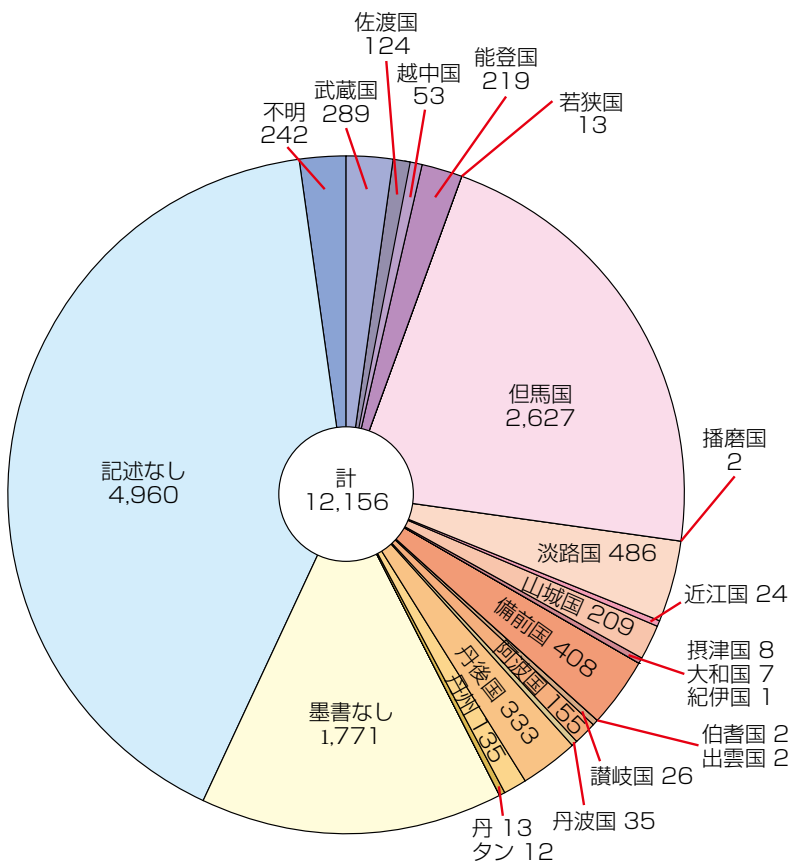


図1 八万四千宝塔（五輪塔）地輪底部
 全国各地の地名や施主名、被供養者の法名が墨書されています。

図2 墨書にみる施主・被
供養者の住所(国名)一覧

住所(国名)	員数(基)
武蔵国	289
佐渡国	124
越中国	53
能登国	219
若狭国	13
但馬国	2,627
播磨国	2
淡路国	486
近江国	24
山城国	209
摂津国	8
大和国	7
紀伊国	1
備前国	408
伯耆国	2
出雲国	2
讃岐国	26
阿波国	155
丹波国	35
丹後国	333
丹州	135
丹	13
タン	12
墨書なし	1,771
記述なし	4,960
不明	242
合計	12,156

図3 施主・被供養者の住所(国名)比率グラフ




「播州」(播磨国。現兵庫県)が二基、
「備前岡山」,「備前」,「岡山」(備前
国。現岡山県)が四〇八基、「伯州」
「伯耆国。現鳥取県)が二基、「雲州」
(出雲国。現島根県)が二基、「近江
国」,「江州」(近江国。現滋賀県)
が二四基、「京都」,「京」(山城国。
京都府)が二〇九基、「大坂」,「浪花」
(摂津国。現大阪府)が八基、「大和」
(大和国。現奈良県)が七基、「和歌

山」(紀伊国。現和歌山県)が一基、
「讃州」(讃岐国。現香川県)が二六
基、「阿波」,「阿州」,「阿州徳嶋」,「徳
嶋」,「徳嶋」(阿波国。現徳島県)
が一五五基ありました。
また、「丹」,「丹州」,「タン」と
墨書されたものが一六〇基ありまし
た。「丹後国」か「丹波国」の略称
と考えられますが、どちらか判別で
きないものがありました。
◎国別の墨書からみた奉安背景
五輪塔の建立を発願し、寄進を
募った、円通寺の第十一代住職で
あった龍海上人(一七五六〜
一八二〇)は、但馬国(但州)美含
郡の出身で、得度後、二十二歳の時、
高野山正智院に居住しました。同じ
年、円通寺に入り、第十代住職の密
門上人(阿波国出身。一七一九〜
一七八八)に従い受法しました。五
輪塔を木箱に奉安した第十二代住職
の隆鎮上人(一七八三〜一八五四)
は、阿波国の出身で、龍海上人から
諸法を受法しました。
図1,2を見ると、突出して多い
国名は、但馬国の二、六二五基で、
そのうち「但州 美含(郡)」という
地名が記される五輪塔が三九五基も
ありました。恐らく、龍海上人は出
身地の地元の人々に五輪塔の奉安を
強く勧め、また地元の人々も弘法大

師空海のお膝元にいる龍海上人を
慕った結果を表す数だと考えられま
す。また、阿波国の奉安数が一五五
基と多いのも、密門上人と隆鎮上人
の出身地であり、地元の人々が積極
的に奉安したのかもしれない。
また、遠方にも関わらず佐渡国
一二四基、能登国二一九基という数
も、意外に多い奉安数で、その他全
国各地のものが見られます。これら
の五輪塔を一堂に会しますと、当時
の人々が思う、高野山に憧れた気持
ちがひしひしと伝わってきます。
(鳥羽 正剛)

友の会 会員募集
<年会費>
 一般会員 (個人) 3,000円
 賛助会員 (法人) 30,000円
 キャッシュレス決済で、お手続きが可能です。入会希望
 の方は下記から申し込みいただくか、霊宝館までお問い合わせください。
 会費ペイ会員登録用URL・QRコード
https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=9807367488232707



高野山霊宝館からのお知らせ

◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記のとおり開催いたしました。

令和7年10月18日(土)

講師 今井隆照師

令和7年11月8日(土)

講師 辻 雅榮師



ミュージアム法話開催風景(今井隆照師)

今後の開催予定

- 5月16日(土)、6月13日(土)、7月4日(土)、8月22日(土)、9月12日(土)、10月17日(土)、11月21日(土)
- いずれも午後1時より約45分

◎奥之院探検ツアー



奥之院探検ツアー開催風景

秋期企画展「高野山奥之院く弘法大師信仰の始まりと広がり」の関連事業として、令和7年10月15日(木)と11月15日(土)の2日間、奥之院にある文化財を巡るツアーを開催いたしました。

◎霊宝館友の会文化講座 「八大童子見学ツアー」

1月15日(木)、奈良国立博物館内にある文化財修理所などを巡る見学会を開催いたしました。修理所では、現在保存修理中の国宝 八大童子立像(金剛峯寺蔵)の修理状況などを見学。その他、同市内にある特別史跡平城京跡を見学しました。

◎展覧会予定

◎春期企画展

- 「御社遷宮にちなみたどる高野山の神々」
- 4月18日(土)～7月5日(日)
- 出陳品
- ・国宝 金光明最勝王経 龍光院
- ・国宝 丹生高野両所大明神表白(続宝簡集五六) 金剛峯寺
- ・重文 毘沙門天像 光臺院

◎大宝蔵展

- 「高野山の名宝く大集合! 金剛峯寺の宝物」(仮称)
- 7月11日(土)～9月27日(日)
- 出陳品
- ・国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺

- ・国宝 聾瞽指帰 金剛峯寺
- ・未指定 弘法大師十大弟子像 金剛峯寺



国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺

◎秋期企画展

- 「高野山と豊臣家」(仮称)
- 10月3日(土)～12月21日(月)
- 出陳品
- ・国宝 豊臣秀吉朱印状(続宝簡集三八) 金剛峯寺
- ・国宝 紺紙金銀字一切経(中尊寺経) 金剛峯寺
- ・重美 太閤秀吉像 蓮華定院

◎冬期平常展

- 「密教の美術く秘蔵宝物展」(仮称)
- 令和9年1月9日(土)～3月28日(日)
- 出陳品
- ・重文 経雜阿含経卷第三九 金剛峯寺
- ・未指定 阿弥陀如来坐像右手(千手院観音堂旧在) 金剛峯寺
- ・未指定 灌頂法具類 龍光院

◎貸出情報

●東京国立博物館

弘法大師生誕1250年記念

特別展「空海と真言の名宝」

7月14日(火)～9月6日(日)

- ・重文 弘法大師・丹生高野両明神像(問答講本尊) 金剛峯寺
- ・重文 執金剛神立像・深沙大將立像(附宝篋印陀羅尼) 金剛峯寺
- ・重文 板彫両界曼荼羅 金剛峯寺
- ・重文 五大力菩薩像 普賢院
- ・重文 両界曼荼羅図 龍光院
- ・和歌山県指定 真言八祖像 西南院
- ・未指定 弘法大師・丹生高野両明神像 宝寿院



重文 弘法大師・丹生高野両明神像(問答講本尊) 金剛峯寺

◎記事の訂正

令和7年10月4日発行の「霊宝館だより」152号6頁特集高野山のタイトル書跡「秘記高野山三鉛松」のルビに誤記がございました。左記のとおり、訂正させていただきます。

誤 「ひきこうやさんみこのまつ」
正 「ひきこうやさんみこのまつ」